

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校創立 125 年を超える伝統ある本校の役割は、生徒や保護者・地域・社会の期待に応えるため、生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに、地域・社会に有為で未来を拓きグローバルに活躍するために求められる「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」を育成することである。 そのため、「グローバルリーダーズ・ハイスクール (GLHS)」、「スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH)」としての責務のもと、生徒にとって有意義で充実した教育活動の展開を追求していく。 ■ 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒 ○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒 ■ 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成

- (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保を徹底し、生徒の持つ「学力」を最大限に引き出す。
- ア 講習の実施や自習室の開放など、土曜日の午前の時間帯に生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日の午前に学習する習慣を身に付けさせる。
- イ 「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成、また、ポートフォリオとして様々な活動を記録する習慣を身に付けさせる。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「土曜日の午前中を学習時間として活用」の肯定的評価を60%以上に。(R2 58.6%, R3 53.1%, R4 49.0%)
- (2) GLHS、SSHとして教育活動の充実に取り組み、生徒の「幅広い資質・能力」の向上を図る。
- ア 課題研究の充実を図り、生徒の「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」、「協働して取り組む力」などを育成する。
- イ 外部と連携した取組みや地域と協働した取組みなどをすすめ、GLHSやSSH等の活動をさらに深化させる。
- ウ 「グローバルリーダー養成プログラム」など、海外の大学生等との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、「英語による表現力」を育成する。
- ※ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を70%以上に。(R2 67%, R3 60%, R4 63.7%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「岸和田高校では特色ある教育活動が行われている」の肯定的評価90%以上を維持。(R2 96.2%, R3 95.1%, R4 92.7%)
- (3) 学校として組織的に、また、教員一人ひとりが授業力の向上に取り組む。
- ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、生徒の「確かな学力」の育成をめざす。
- イ 教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価を90%以上に。(R4 89.0%)
- ※ 授業アンケート項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身に付いた」の平均 3.20以上を維持。(R2 3.28, R3 3.24, R4 3.30)

2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」

- (1) GLHS、SSH等の活動を通して、生徒が高い志を持ち、自らの将来像について主体的に考えるよう働きかける。
- ア 大学・研究機関等への訪問等を通して、生徒が視野を広げ、学習意欲を高めることにより、「主体的に学ぶ力」を育む。
- イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施により、生徒が高い志を持ち、早い段階で自らがめざす将来像を描けるようにする。
- ※ 大学・研究機関等への訪問、各種講演や研修、実習など、それぞれの取組みに対する生徒の肯定的評価を90%以上に。
- (2) 第一に希望する進路の実現をめざし、生徒が高い志を持続けることができるよう指導・支援する。
- ア 学力診断や模擬試験等を定期的な実施し、生徒が自らの実力を把握するとともに、教員がその結果に基づき適切な進路指導を行う。
- イ 「岸高スーパークラス」、「岸高ハイレベル講習」など、高い志をもった生徒が互いに切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整える。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」の肯定的評価90%以上を維持。(R2 92.9%, R3 95.4%, R4 94.1%)
- ※ 国公立大学進学者の割合を55%以上に。(R1-R2で46.0%, R2-R3で52.4%, R3-R4で44.8%)

3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備

- (1) 「文武両道」をめざし、学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。また、部活動において「リーダーとしての資質・能力」を育む。
- ア 生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図り、生徒の「豊かな感性」を育む。
- イ 部活動を奨励するとともに、部活動においてリーダーとしての資質・能力を育む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価90%以上を維持。(R2 93.4%, R3 91.4%, R4 93.1%)
- (2) 生徒一人ひとりが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。
- ア 社会人としてのマナーを身に付け、自他の人権を尊重する人権感覚を醸成するなど、「高い人間性」を育む。
- イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。
- ウ 教育相談室（教育相談・支援教育）の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R2 77.8%, R3 82.1%, R4 81.4%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価85%以上を維持。(R2 88.1%, R3 87.6%, R4 90.9%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価を65%以上に。(R2 62.6%, R3 62.5%, R4 64.4%)
- (3) 学校として組織的に校務運営の効率化を推進し、教員一人ひとりが教員としての資質・能力を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。
- ア 各分掌、各学年が行う行事や取組みなどについて、課題を洗い出すとともに、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。
- イ 全校一斉定時退庁日及びノークラブデーを徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理に努める。
- ※ (教職員向け) 学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R2 71.7%, R3 66.7%, R4 83.9%)
- ※ 時間外在校等時間が月当たり80時間以上となる教員の人数を前年度より減少させる。(12月末までの月当たり80時間以上：R3 7人, R4 5人)

4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上

- (1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果などを積極的に広く発信する。
- ア 様々な機会を通じて、また、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。
- イ 学校Webページ「岸高’e’博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校所蔵の資料のデジタル版「岸コレ」などを発信する。
- ※ (保護者向け) 学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価90%以上を維持。(R2 93.7%, R3 94.8%, R4 91.9%)
- ※ 学校Webページ「岸高’e’博物館」へのアクセス数を前年度より増加させる。(12月末までのアクセス数：R3 13,000人, R4 11,000人)
- (2) 地域の学校や団体等との連携を密にし、地域を中心とした社会参画意識の向上を図る。
- ア 地域の幼稚園や小学校等との交流などを行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。
- イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。
- ※ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(R4 5本)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学校生活全般】 - 生徒の「入学して満足している」は90%弱の数値が続いていたが、今年度は91.2%と90%を超えた。生徒の「学校に行くのが楽しい」も上昇した。ただ昨年度も書いたが、90%という数値は高いようだが、1割の生徒は満足していないという考えのもと、引き続き、教育活動の充実、教育環境の整備に取り組んでいきたい。 【指導方針】 - 生徒の「授業や部活動に熱心な先生が多く、その指導方針に納得できる」、保護者の「指導方針全般に共感できる」はともに、この3年間で最も高い数値であった。概ね、納得・共感してもらっているとはいえ、自由記述では改善すべき具体的な意見を多数いただいた。すぐに対応できることは速やかに改善するとともに、今後、意見を踏まえた改善を進められるよう検討していきたい。 【学習指導】 - 生徒の「授業に満足している」は87.7%であり、昨年度と全く同じ数値であった。保護者の「授業が分かりやすいと言っている」も、3年間で最も高い数値であった。全体的な数値は上がったが、自由記述では個別具体的な多くの意見をいただいた。こうした意見を真摯に受け止め、教員一人ひとりの教科指導力の向上に向けて、学校として組織的な取り組みを継続していきたい。 - 生徒の「1人1台端末を積極的に活用している」は90.3%であり、昨年度よりやや上昇した。各学年の数値を見ても、すべての学年において昨年度より少しずつ数値が上昇している。今後さらに1人1台端末が授業改善に有効なツールとなるよう研究をすすめ、1人1台端末を効果的に活用した授業実践事例を蓄積していきたい。 「課題研究をはじめとする探究的な学習や特色ある教育活動が行われている」は、生徒、保護者とも3年連続で下がっていたが、今年度は上昇した。特に、保護者の数値は3年前より高くなった。課題研究は課題発見・解決能力をはじめとした、これからの予測困難な時代を生きていくうえで必要となる資質・能力を育成するために重要な役割を果たすものであり、さらなる充実を図っていきたいと考えている。 - 生徒の「土曜日の午前中は自学自習や学校の講習等に参加するなど、学習時間として活用している」は3年連続で下がっていたが、今年度は50%を超えた。部活と勉強の両立に向けて、学習時間の確保が求められる中、学習習慣の定着が課題である。学習時間の保障に向けて、取り組みの工夫・改善を行うとともに、生徒には継続して時間の有効活用を訴えていきたい。 【進路指導】 - 生徒の「将来の進路や職業などについて、講演会や説明会を実施するなど適切な指導をおこなっている」は94.5%、保護者の同様の項目は93.6%であり、保護者については3年間で最も高い数値となった。今後も生徒一人ひとりが具体的な目標、「高い志」をもって学習に取り組めるよう、進路や職業などについての講演会や説明会などを効果的に取り入れながら、丁寧な進路指導をすすめていきたい。 【生徒指導】 - 生徒の「あいさつやマナーを守る指導を行うことで社会人としてのモラルを守る態度を育てるとともに、いのちの大切さを学ぶ機会がある」は84.7%であり、この3年間で最も高い数値となった。今年度から朝読の時間を廃止したが、1限の授業前に廊下に立ち、あいさつする教員が多くいることも上昇の要因の一つだと考える。引き続き、あいさつやマナー指導をはじめ、全教員が生徒指導の重要性を認識し、学校の指導方針に基づき一致した指導が行えるよう取り組んでいきたい。 【教育相談】 - 生徒の「いじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は92.0%、保護者の同様の項目は90.5%であり、3年間で最も高い数値となった。 - 生徒の「保健室や相談室などで気軽に相談できる」は71.8%となり、昨年度の64.4%を大きく上回った。このことは、保健室への来室者数が増えていることにも現れている。学習面や人間関係などで悩みを抱える生徒が一定数いる中、引き続き、学校として、生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。 【学校行事・部活動】 「文化祭や体育祭、校外学習などの学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」は生徒が92.9%、保護者の同様の項目は96.4%であり、この3年間で最も高い数値となった。新型コロナウイルス感染症の影響なく、ほぼ予定どおり、学校行事を実施できたことが要因だと考えられる。また、生徒の「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加している」は92.8%であった。 【発信・広報】 - 生徒の「メールサービスやクラスルーム、ホームページ、校長ブログ等によって、学校の情報が発信されている」は92.4%、保護者の同様の項目は93.8%であった。自由記述においてもメールサービスはとても好評であった。この項目は昨年度大きく数値を下げたが、今年度は特に校長ブログの配信回数を意識し、学校の行事や取組の発信に努めた。一方で、ホームページの更新については滞ったままであるため、今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。 【PTA活動等】 - 保護者の「学校行事やPTA活動に参加したことがある」は68.7%であり、昨年度の55.1%を大きく上回った。コロナ禍前と同様な程度まで、文化祭や体育祭をはじめとした学校行事やPTA活動などに来校いただけるようになっている。また今年度は本校で初めて保護者を対象とした授業公開を実施したところ、多くの方に来校いただいたことも上昇した要因の一つだと考える。来年度のPTA総会は集合型での実施を予定しており、より多くの保護者の方に来校いただけることを願っている。	第1回（5/17） ○スクール・ミッション（設置者案）について - 教育庁から最終案として示されたスクール・ミッション（設置者案）について報告したが、特に意見は出なかった。 ○令和5年度学校経営計画について - 育てたい生徒像に「爽やかで骨太」という表現を長年使用していると思うが、「爽やか」という表現は抽象的で、どのようなイメージなのか分かりにくいように感じる。 - 学校経営計画に記述のある土曜日の講習の実施と今年度から新たに追記された働き方改革とは表裏になるのではないか。 - 働き方改革に伴って、中学校では部活動の地域化が進んでいるが、高校はどのような状況になっているか。 →今年度から「大阪モデル」として、合同部活動の取組みが始まった。 ○スクール・ポリシー（案）について - このスクール・ポリシーはどのような根拠に基づき、策定しなければならないとされているのか。 →学校教育法施行規則が改正され、策定並びに公表が求められている。 - スクール・ミッションは設置者が示すもので10年間変更しないものならば、高校の学科なども10年間変わらないということになるのか。 →学科の改編などがあれば、見直しを行うことになるのだろうと思う。 「高い専門性」という言葉を使っているが、何を意味しているのか。 →本校は文理学科として専門教科を学ぶことを意識し、その表現を加えた。 第2回（10/11） ○学校経営計画の進捗について - 土曜日の午前中に学習していると答える生徒の割合が減っているとのことであったが、今年度の生徒の実態はどうなっているのか。 →講習を受けたり、自習室に来たりする生徒は減っていると感じている。 - 朝読を廃止し、別の取組みを入れたのか。子どもたちの「本離れ」は課題と言われているが、朝読を廃止して生徒には変化があったのか。 →新たな取組みは実施していない。今後、生徒にアンケートを取るなどにより、読書に対する意識の変化や実態などについて調べる。 「スーパークラス」の成果などを検証するためアンケートを実施し、継続するかどうか検討をすすめてくれたのは有難いが、私自身は「スーパークラス」の生徒が享受する内容を他の全ての生徒が受けられるようにしてもらいたいと考えている。 「スーパークラス」を増やすということはないのか。 →習熟度・進路希望別授業の実現が目的であり、増やすことは考えていない。 - 昨年度の課題研究の最終発表を拝見したが、この取組みは社会に出てから役に立つものであると思うので、発表の内容をより深めた内容にもらえると思う。 (授業見学をされて) 授業内容がハイレベルになっていると感じた。授業内容にも興味をそそられた。 第3回（2/14） ○令和5年度学校経営計画の評価について - PTAでも校長ブログの反響は大きい。文字の量は少なくして校長先生の負担を減らしてもらっては。コンパクトにし更新回数を増やしてもらってはどうかという意見がある。 - これまでPTA行事について校長ブログへの掲載をお願いしてきたが、できればPTA行事のみ「PTAブログ」として掲載することを検討してもらえないか。 →「PTAブログ」として新たなブログを設けることは可能だと考える。 - 学校行事や部活動などが活発であり、生徒が学校を楽しんでいると感じているということをもっとアピールしたらよいのではないか。 →学校説明会などでは生徒が主役になって発表する機会を設けている。 - 岸高手帳を活用する生徒の数値が下がっているのは、教員が求めている部分と生徒のニーズがあっていないからではないのか。 - PTA行事について、PTAが参加できる行事を考えてもらえればPTAの参加率も上がる。体育祭のプログラムの中にもPTAが参加できる競技を加えてもらえれば有難い。PTAの担い手が少なくなっていることも課題となっているため、PTAが参加できる機会が多くなることは、その改善にも繋がると考える。 - PTA行事に参加することのハードルを下げるためにも、PTA実行委員の方々が直接声かけをしてもらうとよいのではないか。 - 校長が着任し2年めに入って着実に変化が出ていると感じているが、教員の評価に気になる部分がある。さらなるインパクトが求められているのではないか。 - 来年度から「土曜午前の原則部活動禁止」は廃止する方向のようだが、そのように変更することによって教員の働き方は苦しくならないのか。 ○文理課題研究発表会について - 小学生の発表を拝見したが、すごく活き活きとした姿を見ることができた。この経験が将来的に岸和田高校への進学希望に繋がると良いと感じた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 「土曜学習タイム」実施による土曜日午前の学習習慣の定着 イ 「岸高手帳」の活用による学習習慣の定着 (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア 課題研究の充実 イ GLHSやSSHの活動のさらなる深化 (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 1人1台端末を活用した授業改善の取組み イ 教員一人ひとりによる「授業振り返りシート」を活用した授業改善の取組み	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・土曜日午前の時間帯に講習の実施や自習室の開放など、生徒が主体的に学ぶ環境を整えることで、土曜日の午前に学習する意識を高め、習慣を身に付けさせる。 イ ・「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成を図る。 (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・課題研究を「縦割り型課題研究」及び「文理融合型課題研究」として充実させ、「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」などの育成を図る。 イ ・外部との連携や地域での協働等により、GLHS や SSH の活動をさらに深化させる。 (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。 イ ・教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき、課題の洗い出し、改善方策の策定、成果検証を行う「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習時間として活用」の肯定的評価を60％以上に。[49.0％] イ ・「岸高手帳」の活用度について「活用している」「まあまあ活用している」を50％以上に。[39.9％] (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を70%以上。[63.7％] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「特色ある教育活動がある」の肯定的評価90％以上を維持。[92.7％] (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価を90％以上に。[89.0％] イ ・授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価 3.20以上を維持。[3.30]	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・肯定的評価は 51.4％であり、昨年度の数値を上回ったが目標には達しなかった。学習時間の確保に向けた学習習慣の定着が課題となる中、取組みについての見直しと生徒のさらなる学習意欲の向上を図りたい。(△) イ ・「岸高手帳」の活用度は 31.0％であった。「岸高手帳」の活用を通して、スケジュール管理の重要性を改めて訴えていきたい。(△) (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・SSH アンケートによる肯定的評価は 61.5％であった。改めて、課題研究を行うことの意義を伝えるとともに、自分事として研究に取り組むよう働きかけていきたい。(△) イ ・「特色ある教育活動がある」の肯定的評価は94.3％であり、数値は向上した。さらなる改善に努めたい。(○) (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は90.3％であり、目標を達成した。授業力向上を目的に、取組みをすすめていきたい。(○) イ ・授業アンケートの項目8,9の肯定的評価は昨年度の数値を上回り、平均3.34 であった。すでに高止まりかと考えていたが、教員一人ひとりが真剣に毎時間の授業に向き合い、教材研究に努めた成果だと考える。(◎)
2「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 大学・研究機関等への訪問の実施 イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施 (2) 第一に希望する進路の実現 ア 進路指導の充実 イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」の実施	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・京都大学キャンパスガイドや大阪大学ツアー、東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーなどの参加を奨励する。 イ ・卒業生による職業講話や大学教授等の出前講義、SSH 講演会などを実施し、生徒に将来について考える機会を与える。 (2) 第一に希望する進路の実現 ア ・学力診断や模擬試験等の結果を踏まえた適切な進路指導を行う。 イ ・「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」など、高い志をもった生徒が切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整備する。	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーへの参加生徒の肯定的評価95％以上を維持。[100％] イ ・卒業生による職業講話、大学教授等の出前講義、SSH 講演会への参加生徒の肯定的評価90％以上を維持。[いずれも90％以上] (2)第一に希望する進路の実現 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価90％以上を維持。[94.1％] ・国公立大学進学者の割合を50％以上に。[R3-R4で44.8％] イ ・「岸高ハイレベル講習」について、生徒アンケート「受講してよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに85％以上を維持。[89.6％、88.1％] ・「岸高スーパークラス」について、生徒アンケート「クラスに入ってよかった」の肯定的評価85%以上、「実力がついた」の肯定的評価80％以上に。[93.0％、82.5％]	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーに参加したすべての生徒が「とても満足している」、「満足している」と答え、肯定的評価は100％であった。(○) イ ・各種講演会に参加した生徒の満足度は高く、肯定的評価は90％以上(卒業生による職業講話は92.0％、大学教授等の出前講義は92.1％)であった。(○) (2) 第一に希望する進路の実現 ア ・「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価は94.5％であった。進路指導について一定の評価を得ていることが分かった。(○) ・国公立大学進学者の割合は45.7％であった。(△) イ ・「岸高ハイレベル講習」は、「受講してよかった」が95.4％、「実力がついた」が87.9％と、参加生徒から高い評価を得ることができた。(◎) ・「岸高スーパークラス」は、「クラスに入ってよかった」が95.7％、「実力がついた」が98.5％であった。(◎)

府立岸和田高等学校

3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 生徒が主体的に取り組むことができる活動の充実 イ 部活動の奨励と部活動におけるリーダーとしての資質・能力の育成	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・校外学習、文化祭、体育祭、合唱コンクールなど、生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図る。 イ ・部活動員を対象とした研修を実施する。	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[90.1%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[93.1%] ・部活動員対象の研修を1回以上実施 [2回実施]	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価は 92.9%であった。(◎) イ ・「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は 92.8%であった。実際に本校では、部活動に加入しているのべ生徒人数の割合は 95%を超えている。(○) ・運動部員対象の研修を 2 回実施。(10/10、2/26) (○)
	(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 社会人としてのマナー、人権感覚の育成 イ 安心して学ぶことができる学習環境づくり ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実	(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・社会人としてのマナーや自他の人権を尊重する人権感覚など、「高い人間性」を育む。 イ ・生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。 ウ ・教育相談室の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。	(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[81.4%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価 90%以上を維持。[90.9%] ウ ・(生徒向け)学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価を 65%以上に。[64.4%]	(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は 84.7%であった。生徒に対し、あいさつやマナー指導など、全教員が一致して指導を行っていきたい。(◎) イ ・「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価は 92.0%であり、この3年間で最も高い値となった。安全で安心な教育環境に向け、さらなる向上をめざしたい。(○) ウ ・「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価は 71.8%であり、目標を大きく超えた。さらに生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。(◎)
	(3) 校務運営の効率化の推進 ア 各分掌、各学年が行った取組みに関する検証と業務改善 イ 全校一斉定時退庁日及びノークラブデーなどの徹底	(3) 校務運営の効率化の推進 ア ・各分掌、各学年が行った取組みについて、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。 イ ・全校一斉定時退庁日及びノークラブデーなどを徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理を行う。	(3) 校務運営の効率化の推進 ア ・(教職員向け)学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価 85%以上に。[83.9%] イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)の人数を前年度より減少させる。[5人]	(3) 校務運営の効率化の推進 ア ・「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価は 80.0%であった。(△) イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)は5人であった。80 時間以上の人数は変わらなかったが、全体の平均は減少した。(○)
4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 様々な機会、様々な手段による教育活動の積極的な発信 イ 学校Webページによる探究学習の成果、岸和田高校教育コレクションの発信	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・様々な機会、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。 イ ・学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校が所蔵する資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・(保護者向け)学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 90%以上を維持。[91.9%] イ ・学校Web ページ「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)を前年度より増加させる。[11,000 人]	(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 93.8%であった。(○) イ ・「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)は 7,827 人であった。(△)
	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流による社会参画意識の向上 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した地域の課題解決や発展に貢献できる取組	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。 イ ・地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園との交流を2回以上実施。[2回] イ ・生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。[5本]	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園との交流を2回実施した。(○) イ ・2年生文理課題研究において、地域の課題をテーマとした課題研究は5本であった。地域のNPO の方たちなどの協力を得た成果だと考える。課題研究のさらなる充実に努めていきたい。(○)